

湯築城跡出土の水晶製五輪塔形舍利容器について

柴田圭子

はじめに

国史跡湯築城跡(愛媛県松山市道後公園)は、二重の堀と土塁に囲まれた独特の形態を有する平山城で、伊予国の守護河野氏の居城である。発掘調査は平地部の南側において面的に行われ、その他の地区については全面で試掘調査が実施されたものの、各地区の性格など不明な点も多く、全貌が解明されたとは言い難い。

発掘調査による最大の成果として、外堀とそれに伴う土塁の築造が16世紀前半に行われ、その際に平地部が整備されたことが挙げられる。しかし、中央にある丘陵部では、それを遡る遺構がみつかっており、初期の湯築城は丘陵部を利用していたと推定される。その丘陵部では、特殊な遺物が出土しており、それが本稿で取り上げる水晶製五輪塔形舍利容器である。これについては既に報告書に掲載しているが(愛媛県埋文2000)、舍利容器であることを明記しておらず、実測図に若干の誤りもあるため、再報告することとした。

1 水晶製五輪塔形舍利容器について

舍利容器が出土したのは、丘陵部北下郭(報告書ではD地区)(図1)で検出した「土堤状遺構」である(写真1)。土堤状遺構は、炭・焼土層に覆われ、火災により廃絶したと考えられる礎石建物(SB001)に近接し、若干土を盛り上げた土堤(長径0.96m、土堤の幅0.25m)を「C」字状に巡らせており。中央部のくぼみには炭化麦がまとまって確認され、水晶片はその炭化麦に混じって出土した。土堤状遺構は炭・焼土層を除去する過程での検出であり、火災前から存在していたと考えられるが、炭化麦を含む中央のくぼみは上位から掘り込んでおり、埋土には炭化物を多く含むこと、周辺にも炭化麦の散布が認められたことから、炭・焼土層を掘り込んで形成されている。炭・焼土層の上層は整地層であり、火災後に再整備が行われている。以上のことから、火災直後から整地を行うまでの時期に土堤状遺構の中央にくぼみ状の小穴を掘り、炭化麦と水晶片が入れられたことがわかる。

礎石建物を覆う炭・焼土層からは、土師質土器皿・杯、備前焼甕・擂鉢、貿易陶磁器の青磁碗、白磁皿、青花磁皿など多様な遺物が出土しており、これらの時期は15世紀後半を中心に16世紀初頭まで下る可能性がある(柴田2000)。このことにより、礎石建物の火災の時期は15世紀末~16世紀初頭の幅でとらえられ、外堀掘削前の遺構と判断される。また、陶磁器の中には、青磁瓶類が2点含まれており、器形と文様から長頸の花瓶または梅瓶の可能性がある(図2-190・191、番号は報告書と同一、以下同様)。湯築城内ではほかに青磁の長頸花瓶や梅瓶は出土しておらず、SB001は、小規模な礎石建物ではあるが、城内最高所に近く、希少な陶磁器を有する特殊な意味を持つ建物と考えられる。

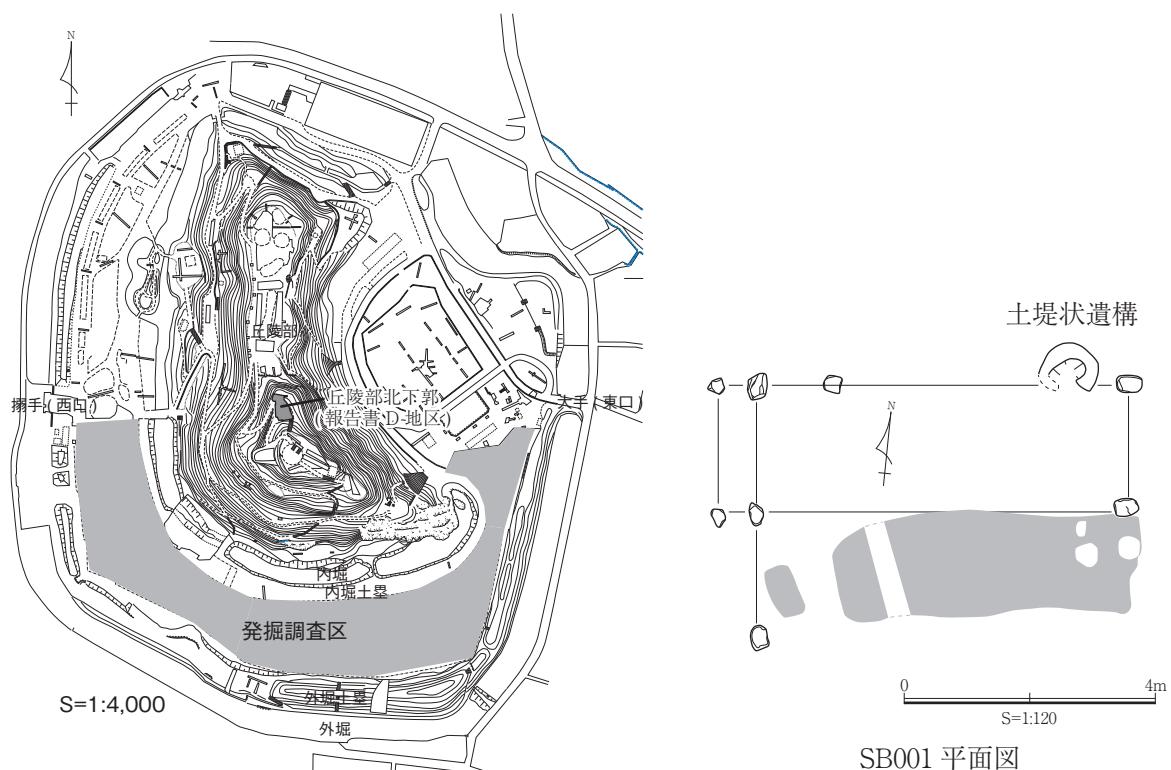


図1 湯築城跡平面図と調査区の位置・SB001 平面図

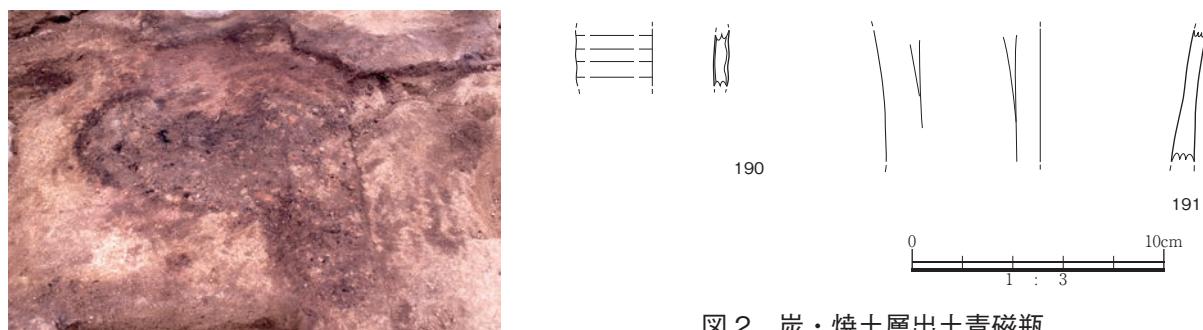


図2 炭・焼土層出土青磁瓶



写真1 土堤状遺構平・断面(西から)

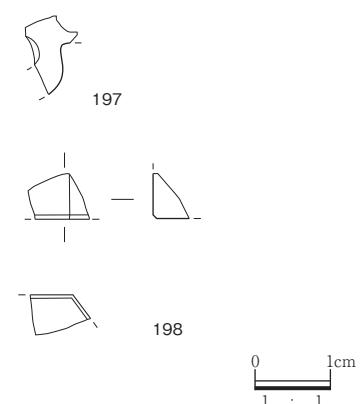


図3 水晶製五輪塔形舍利容器実測図

出土した水晶片は、五輪塔形舍利容器の火輪と水輪の一部と、地輪の一部の2片である（図3-197・198）。廃土も含めて篩にかけたため、ほかに破片はなく本来2片のみであったとみられる。

197は、火輪と水輪の一部で、それが一体となっていることがわかる。残存する高さは1cmである。報告段階では、火輪の外面が残存していると考えたが、改めて観察したところ破損していることがわかった。そのため火輪の形状は水輪上部と接する下端部分の一部を除いて不明である。水輪は、やや下膨れの球状で、内面には舍利を納めるための穿孔がなされている。198は地輪の下部で、残存する高さは6mmである。平面形は六角形に復元できる。下端の角は丁寧に面取りされている。これらの形状により、本資料は六角形の五輪塔形舍利容器の一部と判断できる。

2 類例

鎌倉時代には、南都(奈良)を中心とした戒律復興の気運を受けて舍利信仰が高揚し、五輪塔形舍利容器は、東大寺復興を成し遂げた重源や、西大寺の中興の祖である叡尊などが主導的な役割を果たしながら普及し、そのうち水晶製のものは、12世紀初頭に新たな仏舍利莊嚴具としての形式を完成させ、12世紀を通じて多用されるようになったとされる（河田2000）。水晶製五輪塔形舍利容器には紀年銘資料も多く、最も遡る例は、重源によって建久8(1197)年に阿弥陀寺(山口県防府市)鉄製宝塔に納入された三角五輪塔形舍利容器が挙げられる。銘文により「真舍利七顆」を入れた「五輪水精塔」が奉納されたことがわかり、阿弥陀寺に伝わる本例がこれに当たるとされている（奈良国立博物館2006）。六角形の水晶製五輪塔形舍利容器（以下、六角五輪塔形と呼称）は、瑞巖寺（宮城県松島市）に北条政子により納められたという例や、橘寺放生院（京都府宇治市）の浮島十三重層塔納置資料などが知られる。

五輪塔形舍利容器については、過去に何度か集成が行われており（奈良国立博物館1983、（財）元興寺文化財研究所1995ほか）、その中で水晶製品も取り扱われている。また、六角五輪塔形に関しては、瑞巖寺資料を評価するために集成されたほか（河田2000）、近年新たに集成され、全国で15例27基が確認された（大内2023）。これまでの集成では、湯築城跡出土資料は取り扱われていなかったため、それを評価するに当たり、過去の集成成果に新規発見資料などを加えて、水晶製五輪塔形舍利容器全体を改めて集成した（表1）¹。その結果、水晶製五輪塔形舍利容器は、全国で47地点（遺跡）69基を確認することができた。

水晶製五輪塔形舍利容器の形態の特徴については、時期を追っての形態変遷は明らかではなく、全体の概要を述べる。大きさは、一部の仏像納置品等を除いて2~5cm代とかなり小型である。それらは、火輪と地輪がほぼ同幅のものが多く、火輪の裾は面取りをするものとしないものがある。地輪の高さは高いものと低いものがあり、地輪の下辺は真っ直ぐに加工するが、上辺は各辺若干丸みを持ち、繊細な面取りがみられるものもある。蓋部と身部に分かれ、その境は、風・火輪の間か火・水輪の間に設けられている。舍利が水輪におさまるように身部には孔を穿つ。六角五輪塔形のうち、図や写真で確認できる少なくとも22例は空・風輪が蓋で、火・水・地

表 1-1 水晶製五輪塔形舍利容器一覧(1)

番号	所在地	埋納・収納・出土場所名ほか	時期	遺跡の性格	形狀	高さ [現存値]	参考文献/HPなど	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6
1	山形県鶴岡市	中山廃寺跡SK11	13世紀後半	塚・土坑	六角	[3.49]	鶴烟山古墳1号発掘調査会2014「鶴烟山古墳1号-第1次発掘調査報告書」、藤島町教育委員会 1982「藤島町埋蔵文化財調査報告書3:中山廃寺跡発掘調査報告書」藤島町教育委員会	○					
2	宮城県松島市	瑞巖寺	正治2(1200)	寺院	六角	6.7	神奈川県立歴史博物館ほか2012「武家の古都・鎌倉」	○	○			○	
3	宮城県涌谷町	梵峯寺(こんぽうじ)		寺院	六角	4.2	https://www.city.tome.miyagi.jp/rekihaku/otamesitanuramaro.pdf			○		○	
4-1	茨城県つくば市	極楽寺石塔(五輪塔)	14世紀初頭	寺院・石塔	六角	4.0	土浦市博物館1997「中世の霞ヶ浦と律宗」、桃崎佑輔						
4-2		極楽寺石塔(五輪塔)	14世紀初頭	寺院・石塔	六角		2007「高僧の墓所と石塔-律宗・時宗・禪宗の事例を中心に-」『墓と葬送の中世』高志書院、つくば市教						
4-3		極楽寺石塔(五輪塔)	14世紀初頭	寺院・石塔	-			○	○			○	
5	千葉県館山市	自性院 阿弥陀如来像納入品	鎌倉時代	寺院・仏像	六角		市指定有形文化財、館山市1987「広報たてやま」10月 https://www.city.tateyama.chiba.jp/files/300124146.pdf					○	
6	千葉県木更津市	笠子城跡出土	15世紀	城跡	六角	[3.3]	千葉県文化財センター2004「東関東自動車道千葉・富津線埋蔵文化財調査報告書14-木更津市笠子城跡-」	○				○	
7	埼玉県東松山市	光福寺 石造宝鏡印塔納入	元亨3(1323)銘	寺院・石塔	六角		明治19年(1886年)の「武藏国比企郡郷光福寺宝鏡印塔之記」、 https://www.city.higashimatsuyama.lg.jp/soshiki/55/3705.html	○		○			
8	神奈川県鎌倉市	理智光寺谷やぐら		墓	-		田代郁夫1998「中世石窟「やぐら」の盛期と質的転換」『考古論叢 神奈川』第7集						
9	神奈川県鎌倉市	鶴岡八幡宮境内遺跡	16世紀中～後半	神社		[2.9]	鶴岡八幡宮境内発掘調査1987「鶴岡文庫建設に伴う鶴岡八幡宮二十五坊の調査」	○			○	○	
10	神奈川県鎌倉市	円覚寺門前遺跡出土	13世紀末～14世紀	埋納	六角	[4.5]	宗臺秀明 2015「円覚寺門前遺跡(No287)山之内字松岡134番地點」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21』(第2分冊)					○	
11	神奈川県鎌倉市	覚園寺 大燈塔納置	正慶1(1332)年	寺院・石塔		4.6	神奈川県立歴史博物館ほか2012「武家の古都・鎌倉」、 https://bunka.nii.ac.jp/db/heritages/detail/206880	○	○			○	
12	神奈川県鎌倉市	淨光明寺阿弥陀如来像納入	正安元(1299)年	寺院・仏像		4.0		○	○	○		○	
13	神奈川県小田原市	寶金剛寺(ほうこんごうじ)不動明王像	13～14世紀	寺院・仏像	六角	3.8	神奈川県指定重要文化財、 https://www.hohkongohji.jp/b_jiho.html					○	
14	静岡県沼津市	浅間神社出土	鎌倉時代	神社	八角	4.0		○	○				
15	山梨県見延町	本遠寺	鎌倉時代	寺院	-			○					
16	石川県七尾市	七尾城跡採集	鎌倉時代?	城跡(墓)	六角	総高3.9 径地輪部1.5	https://khrin-ld.rekihaku.ac.jp/rdf/nmjh_rekimin_h/11747077	○					
17	福井県福井市	一乘谷朝倉氏遺跡 第44次 赤淵地区出土	15～16世紀	城下	六角		福井県一乘谷朝倉氏遺跡資料館2000「特別史跡 一乘谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅷ 第44次 第17次調査」 https://asakura-museum.pref.fukui.lg.jp/database_list/046_archaeologic aldata/detail.php?id=2048	○					
18	滋賀県大津市	実藏坊	鎌倉時代	寺院		総高14.8	日本の美術28. 大津歴博だより81	○	○				
19-1	滋賀県大津市	延暦寺 護法童子立像	鎌倉時代	寺院・仏像	六角	4.5	2018年解体修理で不動明王像とともに発見(新聞報道など)、2020年秋季企画展で展示						
19-2		延暦寺	鎌倉時代	寺院		総高14.8	京都国立博物館ほか2005「最澄と天台の国宝」						
20	滋賀県大津市	石山寺 木造如意輪觀音半跏像	寛元3年(1245)	寺院・仏像	-		https://www.ishiyamadera.or.jp/about/treasure						
21	滋賀県守山市	懸所宝塔		寺院・石塔	六角	[2.15]	空風輪欠	○					
22	三重県津市	高田寺 十三重塔下出土	鎌倉時代	寺院・石塔	六角	総高4.1	三重県有形文化財、三重県教育委員会データベース https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/bunkazai/da/daltem Detail?mngnum=730812	○				○	
23	三重県伊賀市	新大仏寺	12～13世紀	寺院	三角	高5.45	奈良国立博物館2006「大勧進 重源」	○	○				
24	三重県伊賀市	仏土寺	鎌倉時代	墓地近辺	六角	高2.9	三重県指定文化財、 https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/bunkazai/da/daltem Detail?mngnum=730992&pageCur=6	○	○	○		○	
25	京都市東山区	馬町十三重塔納置利具	永仁3(1295)	石塔	六角	高3.4		○	○	○		○	
26	京都市東山区	法觀寺五重塔心礎納置	室町	寺院・塔心礎		7.3		○	○				
27	京都市左京区	峰定寺 釈迦如来像納入品	正治元(1199)	寺院・仏像		高4.0	倉田文作編1973「日本の美術7 像内納入品」	○	○	○	○		
28	京都市右京区	仁和寺		寺院	-	11.5		○					
29	京都市伏見区	醍醐寺 弥勒菩薩像納入品		寺院・仏像	-		奈良国立博物館2023「仏師快慶の研究」						

※本一覧は、水晶製五輪塔形舍利容器を集成したものである。一部(水輪)のみ水晶製のものは含めていない。

※番号は同一箇所については同一番号とし、舍利容器が複数確認されている場合、枝番号を付した。

※所在地は参考文献に記された情報を記載した。

※形状は地輪の平面形が三角、六角、八角のもののみ記載した。

※参考文献は参照した複数の文献を記載した。集成されている文献は文献1～6とし、表1-2末尾に示した。個別に紹介されたものは文献名を記載した。

また、所有する地方公共団体や宗教法人のHPに詳細な情報が掲載されている場合、これも参考文献の欄に記載した。

表 1-2 水晶製五輪塔形舍利容器一覧(2)

番号	所在地	埋納・収納・出土場所名ほか	時期	遺跡の性格	形状	高さ [現存値]	参考文献/HPなど	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6	
30-1	京都府宇治市	橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角	高3.0~4.6	重文	○	○	○	○	○		
30-2		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
30-3		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
30-4		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
30-5		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
30-6		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
30-7		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
30-8		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
30-9		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
30-10		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
30-11		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
30-12		橘寺放生院 浮島十三重層塔	弘安9(1286)年造塔	寺院・石塔	六角		重文	○	○	○	○	○		
31	京都府八幡市	正法寺	室町時代	寺院		5.8		○	○					
32	京都府八幡市	八角院 木造元大師像納入	鎌倉	寺院・仏像		4.5		○	○					
33	京都府加茂町	海住山寺 前子納入	中世	寺院・厨子	-	5.6	空風輪欠	○						
34-1	奈良市	西大寺 釈迦如来像納入	建長元(1249)年	寺院・仏像		3.8	国宝、倉田文作編1973『日本の美術7 像内納入品』	○	○	○				
34-2		西大寺 駒獅文殊菩薩像内納入	正安4(1302)年	寺院・仏像		4.8	国宝、倉田文作編1973『日本の美術8 像内納入品』	○	○					
34-3		西大寺	鎌倉	寺院	八角	11.4		○						
34-4		西大寺 金銅宝塔(壇塔)内納入	文永7(1270)年	寺院・宝塔	-	6.4		○						
34-5		西大寺 金銅宝塔(壇塔)内納入	文永7(1270)年	寺院・宝塔	-	2.7		○						
35-1	奈良市	般若寺十三重石塔納置品	建長5(1253)頃	寺院・石塔	六角	高2.8	奈良国立博物館2016『忍性-救済に捧げた生涯-』	○	○	○				
35-2		般若寺十三重石塔納置品	建長5(1253)頃	寺院・石塔	六角	高3.9		○	○	○				
35-3		般若寺十三重石塔納置品	建長5(1253)頃	寺院・石塔		高3.5		○						
35-4		般若寺十三重石塔納置品	建長5(1253)頃	寺院・石塔		高3.9		○						
36-1	奈良県宇陀市	室生寺 五輪塔納入木製五輪塔	室町初期	寺院・石塔	-	3.4	重文、宇陀市国指定文化財	○						
36-2		室生寺 宝篋印塔形厨子納入	永正9(1512)年(厨子)	寺院・厨子	-	10	HPhttps://www.city.uda.nara.jp/bunkazai/kyouiku/bunkazai/bunkazai/kunishitei-bunkazai.html	○						
37	奈良県上北山村	塙ノ窟出土	鎌倉	修驗道行場	六角	2	塙ノ窟発掘調査団1995『塙ノ窟発掘調査概要報告書』 上北山村教育委員会							
38	奈良県斑鳩町	法隆寺	貞和4(1348)年	寺院			https://tsumugiyomiuri.co.jp/feature/%E6%AD%A3%E6%9C%88%E8%A1%8C%E4%BA%8B%E3%80%8C%E8%88%8E%E5%88%A9%E8%AC%91%E3%80%8D%E3%81%8C%E9%96%8B%E5%82%AC/	○						
39	奈良県王寺町	達磨寺 宝篋印塔	中世	寺院・石塔		高10.0 地輪幅4.3	奈良県指定、王寺町教育委員会他 2005『達磨寺発掘調査報告書』、https://home.ogi-kanko.kokosil.net/wp-content/uploads/2017/02/map-daruma.pdf							
40	奈良県葛城市	當麻寺奥院 西塔相輪	建保7(1219)年	寺院・塔	六角		http://www.nihonnotoba3.sakura.ne.jp/2015to/taimatera_ama.jpg・ https://www.pref.nara.jp/secure/204966/taima.pdf					○		
41	大阪府和泉市	施福寺 舍利厨子	南北朝14世紀	寺院・厨子	六角		奈良国立博物館だより93号、 https://www.nara-haku.go.jp/wodpr_nh9/wp-content/uploads/2021/01/dayori_93.pdf					○		
42	兵庫県西脇市	黒田大門 十三重の塔		石塔	六角	高2.5 重2.5g	https://www.city.nishiwakig.jp/material/files/group/6/201301-24.pdf					○		
43	広島県福山市	安国寺 法燈国師像納入	鎌倉	寺院・仏像		6.75	倉田文作編1973『日本の美術7 像内納入品』、S12年発見、 https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/bunka/64318.html	○	○					
44	山口県山口市	龍藏寺 十一面觀音納入	鎌倉	寺院・仏像	六角			○	○					
45	山口県防府市	阿弥陀寺鉄宝塔	建久8(1197)	寺院・宝塔	三角	高13.9	国宝、山口県の文化財HP、奈良国立博物館2006『大勧進 重源』	○	○	○				
46	愛媛県松山市	湯築城跡出土	15世紀後半~16世紀初頭	城跡	六角	-	(財)愛媛県埋蔵文化財センター2000『湯築城跡』第4分冊							
47	大分県豊後高田市	圓福寺 大庭国師像納入	建武4(1337)	寺院・仏像	六角	3.5	大分県指定、櫻井成昭2014『木造大庭国師坐像と像内納入品』『大分県立歴史博物館研究紀要』15、 https://www.city.bungotakada.oita.jp/site/bunkazai/1724.html	○						

参考文献

1 奈良国立博物館1983『仏舍利の莊嚴』

2 (財)元興寺文化財研究所1995『五輪塔の研究一平成六年度調査概要報告』

3 中央公論美術出版2003~2019『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇 第一期・二期 総目録』

4 河田貞2000『瑞巖寺藏水晶六角五輪塔仏舍利容器について』『東北歴史博物館 研究紀要』1

5 古田土俊一2012『中世前期鎌倉における五輪塔の様相』『考古論叢 神奈川』第20集

6 大内直輝2023『笠峯寺藏水晶六角五輪塔について』『仙台市博物館調査研究報告』第43号

輪が身の構造をとる。

舎利容器の時期は、鎌倉時代が圧倒的に多く、それを下るものは僅かであり、六角五輪塔形は5例に過ぎない。

集成した69基のうち、六角五輪塔形は25箇所(遺跡)38基が確認でき、半数以上を占める。六角五輪塔形については、納入例として代表的な般若寺と放生院の十三重石塔が叢尊と関わることから、叢尊との関係が指摘されている(河田2000)。ただし、瑞巌寺所蔵のものが正治2(1200)年寄進とされるほか、當麻寺西塔相輪で発見された古代の舎利容器に建保7(1219)年修理の際に納入された例があり(當麻寺ほか2018)、13世紀初頭には成立していたとみられる。

発見された場所や遺跡の性格ごとに水晶製五輪塔形舎利容器を分類すると(表2)、六角五輪塔形は、先に述べた般若寺と放生院の十三重石塔発見例が14基を占めるため、石塔から発見されたものが21基あり最も多い。しかし、それ以外の形態のものでは、仏像納置品が8基と多く、石塔、塔、厨子、金銅宝塔などを含め寺院に伝わるものが31基中28基ありほとんどを占める。それらと比較すると、六角五輪塔形は、仏像納置品を含め寺院への集中比率は低く、様々な遺跡から出土する傾向が認められる。

次に分布を確認すると(図4)、鎌倉より東と北陸で形態が確認できるものは全て六角五輪塔形で、瀬戸内海沿岸地域でも同形が多数を占める。一方、舎利容器分布の中心である畿内では、般若寺と放生院の十三重石塔を除けば六角五輪塔形は周辺に多く、中心部では少数である。また、鎌倉でも六角五輪塔形は少ない。この傾向は、前述の発見場所や遺跡の性格、あるいは水晶製品を加工した工房とも関連すると思われるが、1点ずつの来歴を分析する必要があり、本稿では傾向を指摘するに留める。

以上のように水晶製五輪塔形舎利容器、特に六角五輪塔形に関しては、①形態は、火・水・地

表2 水晶製五輪塔形舎利容器 形態・性格別集計

性格	六角	三角	八角	その他	合計	六角(%)	全体(%)	
寺院	仏像	5	0	0	8	13	7.2	18.8
	石塔	21	0	0	6	27	30.4	39.1
	塔	1	0	0	1	2	1.4	2.9
	厨子	1	0	0	2	3	1.4	4.3
	金銅宝塔	0	0	0	2	2	0.0	2.9
	鉄宝塔	0	1	0	0	1	0.0	1.4
	その他	3	1	1	6	11	4.3	15.9
神社	0	0	1	1	2	0.0	2.9	
遺跡出土	墓・やぐら	1	0	0	1	2	1.4	2.9
	塚・土坑	1	0	0	0	1	1.4	1.4
	門前町・埋納	1	0	0	0	1	1.4	1.4
	修驗道行場	1	0	0	0	1	1.4	1.4
	城跡	2	0	0	0	2	2.9	2.9
	城下	1	0	0	0	1	1.4	1.4
合計	38	2	2	27	69	-	100.0	

輪が身部となるものと水・地輪が身部となる物があり、双方が認められるが前者が多数を占める、②時期は鎌倉時代を中心であり、それより下るものは少数しか確認できない、③中心的な分布域である畿内や鎌倉では主流ではなく、東国と北陸、瀬戸内海沿岸には多く存在するという3つの特徴が指摘できる。

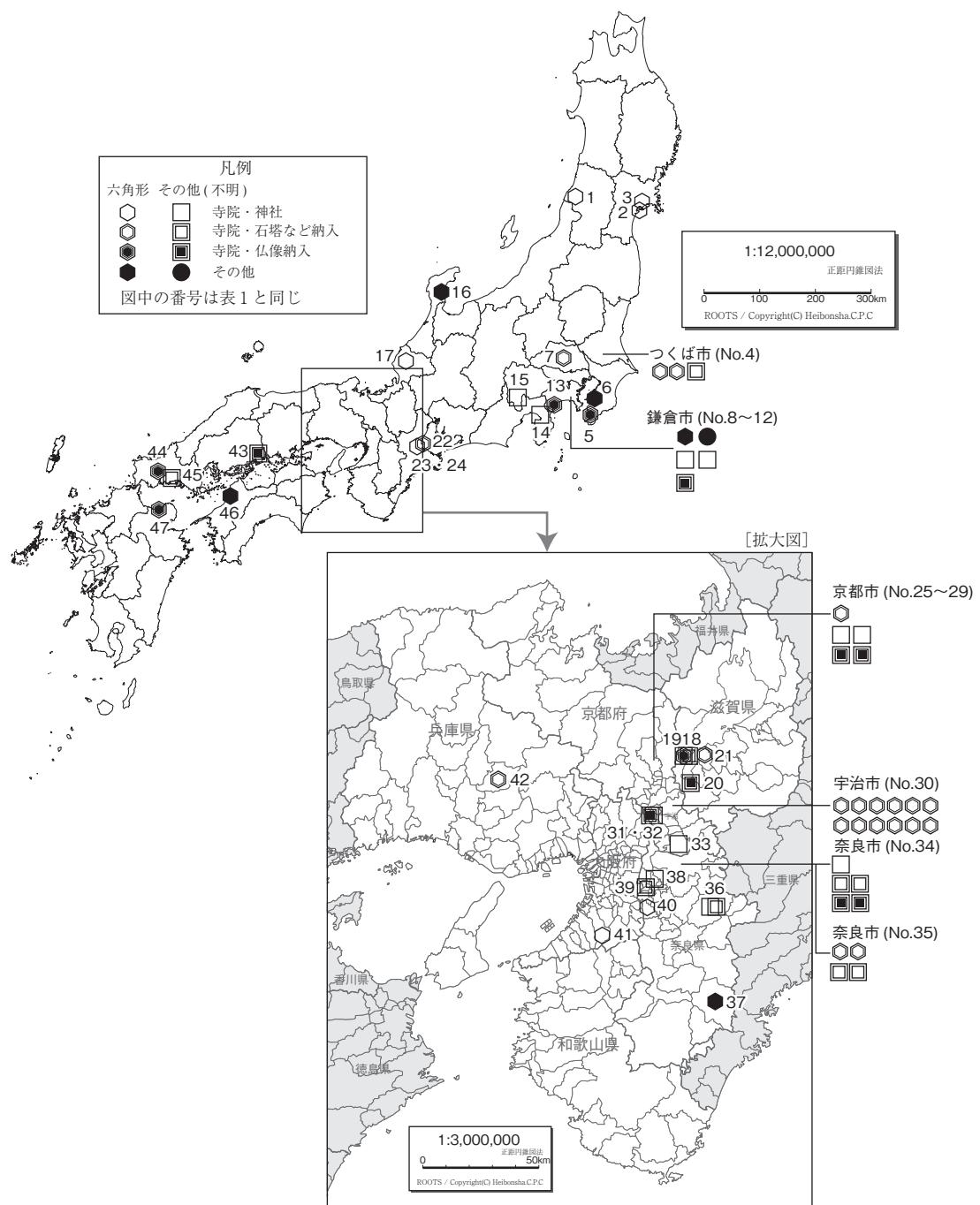


図4 水晶製五輪塔形舍利容器の分布

3 湯築城跡出土資料の評価

湯築城跡出土の水晶製五輪塔形舍利容器は六角五輪塔形であり、全国に分布する六角五輪塔形に追加できるものである。時期は15世紀末から16世紀初頭の火災直後とみられる。

前項の①～③の特徴から湯築城跡出土の水晶製五輪塔形舍利容器を評価すると、①に関しては、火・水輪の連続が確認できるため、火・水・地輪が身部となるものであることがわかる。②については、出土の時期は15世紀末から16世紀初頭であるが、製品の時期は不明である。湯築城跡出土の水晶製五輪塔形舍利容器は地輪の角の加工が大変丁寧で、細かい面取りもなされており、最も類例の多い鎌倉時代のものが伝えられた可能性も十分に考えられる。これについては、時期を追っての製品の特徴が明らかとなって以降検討すべき課題と考える。③に関しては、瀬戸内海沿岸地域における六角五輪塔形の卓越を反映したものと言え、全国の分布傾向と一致していることが指摘できる。

これまで述べてきたように、水晶製五輪塔形舍利容器は寺院関係の発見例や出土例が多い。寺院の塔や石塔以外で、発掘調査によって出土したものとしては、鎌倉時代とみられる例が、塚・土坑、門前町での埋納、修驗道行場があるのに対して、中世後半期では、城館や城下からの出土例が確認できる。具体的には、 笹子城跡(千葉県)(図5-1)(千葉県文化財センター2004)、一乗谷朝倉氏遺跡(福井県)(図5-2)(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館2001)が挙げられる。これらは六角五輪塔形であり、湯築城跡出土例もそれらに追加できる。出土状況が明らかなものは、 笹子城跡が整地層出土とされる。出土例が少数であるため、これらから共通性や相違点を見出すことは難しい

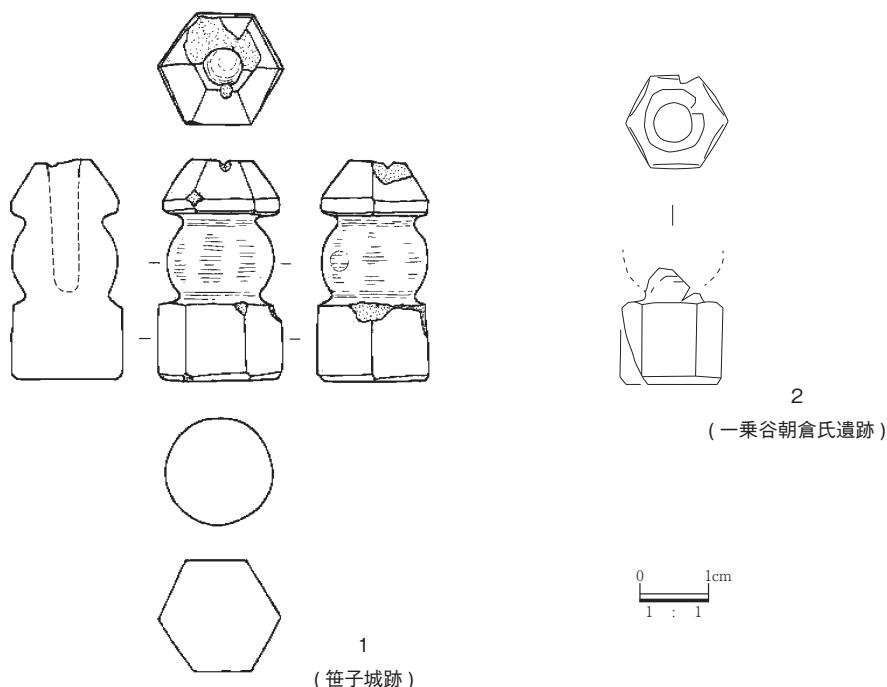


図5 中世後期水晶製五輪塔形舍利容器

が、戦国時代には、寺院ではなく城館から出土する例が確実に存在し、それらは六角五輪塔形であることが指摘できる。

城館から出土する要因としては、城館内に存在した持仏堂や厨子など宗教の場において信仰の対象とされていた、あるいは破損したため舍利容器としては機能せず、地鎮など宗教性を帯びた場で使用されたなどの想定ができる。湯築城跡の出土地点は、礎石建物に近接し、その建物は小規模ながら青磁花瓶類を所有する特殊な建物である。また、火災後にはほどなく麦類とともに廃棄または埋納されており、前者と後者双方の可能性が考えられる。

おわりに

湯築城跡出土の水晶製品について、あらためて水晶製五輪塔形舍利容器であることを確認し、全国集成と傾向分析を行った上で評価した。水晶製五輪塔形舍利容器は大変希少で特殊な遺物であり、湯築城の特徴を考える上で新たな情報を加えることができたと考えている。

しかし、五輪塔形舍利容器自体について、その形態変化や変遷、発見場所を追っての詳細な分析、生産地の問題などは未だ論じる事ができておらず、それらは今後の課題としたい。

謝辞

本稿を記すにあたり、古田土俊一氏、高桑登氏、水澤幸一氏、山口博之氏、松葉竜司氏、沖野実氏にご教示、ご協力を賜りました。末尾となりましたが記して感謝いたします。

注

*1 本集成は過去に行われた集成、新規発見されたものの報道、自治体や寺社のHPなども参照して行った。個人蔵などで本来の出土地・所蔵の不明なものは含めていない。筆者が実見できていないものも多く、形状は過去に公表された成果や図・写真を参考にしている。その情報が得られなかったものもあり現時点ではわかるものののみ形状を記載した。

参考文献

- 大内直輝2023「笠峯寺蔵水晶六角五輪塔について」『仙台市博物館調査研究報告』第43号
河田貞2000「瑞巖寺蔵水晶六角五輪塔仏舍利容器について」『東北歴史博物館 研究紀要』1
古田土俊一2012「中世前期鎌倉における五輪塔の様相」『考古論叢 神奈川』第20集
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2000『湯築城跡』第4分冊
(財)元興寺文化財研究所1995『五輪塔の研究—平成六年度調査概要報告—』
(財)千葉県文化財センター 日本道路公団2004『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書14-木更津市 笹子城跡-』
柴田圭子2000「出土遺物からみた湯築城跡」『湯築城跡』第4分冊 (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
當麻寺 奈良県教育委員会 奈良国立博物館2018『国宝 当麻寺西塔納置舍利容器について【報道発表資料】』
中央公論美術出版2003~2019『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇 第一期・二期 総目録』
奈良国立博物館1983『仏舍利の莊嚴』
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館2001『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告書VIII 第44次 第17次調査』

図引用

- 図1 SB001平面図は(財)愛媛県埋文2000図68を再トレース
- 図2 (財)愛媛県埋文2000図69-190・191に加筆、再トレース
- 図3 (財)愛媛県埋文2000図71-197・198に加筆、再トレース
- 図4 筆者作成
- 図5-1 (財)千葉県文化財センター2004第133図123
- 図5-2 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館2001第16図659を再トレース

(2024年2月28日)